

校長室より

第118号

「天空高き」



平成31年3月1日

最後の平成を迎えて ー日本人の精神性ー

平成に生まれ、平成最後の年に卒業される皆さん、この30年は、平和を希求する国民の強い意志に支えられ、「近現代で初めて戦争を経験せぬ時代」でした。しかし、平成は、自然災害の活性期でありました。阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震そして気候変動による台風の来襲や豪雨災害が多発しました。また、社会に目を移せば、少子高齢化やグローバル化が急速に進展してきた時代でした。天皇陛下のお言葉を借りるならば、決して平坦な時代ではありませんでした。

災害の相次いだこの30年でしたが、特に、未曾有の東日本大震災で被災された方々が秩序を守り、お互いに相手を思いやり、助け合う姿が世界中から称賛を受けました。そして、その心は今も確かに受け継がれています。



卒業生の皆さんと同期の、東京オリンピックでの活躍が期待されている競泳女子エースの池江璃花子選手が白血病であることを公表しました。そのニュースは、瞬く間に世界各地で伝えられ、彼女を応援している一般の方々、共に戦う競泳仲間たちから、同じ病気と闘う人たちから、そして著名人の方々からも、数多くの応援メッセージが届けられています。

また、各地で「骨髄移植」の関心が高まり、「日本骨髄バンク」にドナー（提供者）登録に関する問い合わせや手続きなどが相次いでいます。

勇気をもって公表した池江選手、そして彼女を勇気づけ、一人の人間として今何ができるかを考え、それを実際に行動で示している人がなんとたくさんおられることか。

これらの報道を目にして私は、素晴らしい日本という国に生まれたことに、感謝し誇りに感じます。

日本人に脈々と受け継がれてきたこれらの精神性は、世界に誇れる「日本人の力」です。この力は、日本を世界を動かす大きな原動力になります。その遺伝子が皆さん一人ひとりに引き継がれています。次の日本を創るために。

限界を決めているのは自分自身の心。僕は夢や成長には限界がないと思っている。

サッカー日本代表 長友 佑都

3月の月間目標

振り返る

平成30年度 チャレンジ目標

1. 先に元気なあいさつ
2. 5分前行動
3. 1%を誰かのために

今年のチャレンジ目標は3つ。

1. 先に元気なあいさつ
2. 5分前行動
3. 1%を誰かのために

平成最後の30年度を振り返って皆さん、この一年間どうでしたか？

1番目の「先に元気なあいさつ」は、私が朝校門前に立っていても、皆さんから毎日気持ち良いあいさつをもらいましたし、来客の方々からもよくお褒めの言葉を頂戴しました。これからも、まず自分から気持ちよいあいさつを心がけてください。

2番目の「5分前行動」ですが、多くの皆さんが意識して行動するようになりました。

早め早めの行動を取ることで、良い準備ができます。良い準備は良い結果につながります。次年度も一人ひとりがしっかり意識して、早めの行動を取るようにして下さい。

3番目の「1%を誰かのために」は、残念ながら個人差がかなりあるようでした。長期休暇中、小学生の学習のサポートや支援学校の水泳教室の補助等でボランティア活動に参加してくれましたが、まだまだ不十分です。相手を思いやる気持ちを大切に、勇気をもって行動に移して下さい。よろしくお願いします

マナー指導—熱い卒業生からのメッセージ—

2月13日(水)の6限に行われた「3学期マナー指導」は、3名の卒業生からの講話でした。

藤島陽将(平成16卒)さんは、現在市内で動物病院を開業されています。話の中で、藤島先生は年間数日しか休まない、と言われました。その理由が、動物はどこが痛いか言葉で伝えられないからでした。本当にすごいですね。

藤田(旧姓 安倍)さやか(平成16年卒)さんと長岡雄一(平成21年卒)さんはどちらも看護師として、岡山と広島で活躍されています。両名は高校時代、藤田さんは女子ハンド部に、長岡さんは男子バスケット部に在籍。部活で厳しく鍛えられたお陰で今があること。そして最後には、どちらも「失敗を恐れずにいろいろなことに挑戦してください!」と、後輩の皆さんに熱いメッセージをいただきました。

3名の話聞きながら、彼らが数々の失敗を次の成長の糧にして小さな成功体験を積むことで自信を身に付け、今もチャレンジし続けていることに、深い感動を覚えました。ありがとうございました。



主体的・対話的で深い学び—中・六合同発表会・インターンシップ—

平成31年度入学生から、「総合的な学習の時間」は「総合的な探究の時間」になります。

探究的な学習は、与えられたテーマから、生徒の皆さんが自発的に「仮説」を立てるところから始まります。そして、その仮説について「追究・調べて」、「表現・まとめる」ことで、新たな「仮説」が立ち上がります。

これを繰り返すことで、仮説が変化・発展し、考えが深まっていきます。こうして身に付く「探究する力」は、皆さんが社会に出てからの「生きる力」になります。

この学び方は、現在の「総合的な学習の時間」でもほぼ同様です。

本校の付属中と六年制普通科1，2年生は、この学びの成果を、三学期のこの時期に発表します。

今回で7回目になりますが、冊子「烏岳峰」も随分充実してきました。また、中1から高校2年生まで、14組のプレゼンテーションがありました。甲乙つけがたい発表の態度・内容でした。

普通科では2年生が「インターンシップ報告会」を、毎年3月に行います。

以前「インターンシップ報告会」で、農業関係のインターンシップを体験した生徒、それは「苗の入っていた箱を何百個も洗う」という作業に係ったことに関して、次のように話していたことを思い出します。

「今回のインターンシップは、本当に単純作業の繰り返しでしたが、その単純作業をいかに効率的に楽しくするかを考えて行いました。……」

この経験は彼が社会に出た時の「生きる力」になっていることと思います。

考え方・見方のちがい —能や狂言、歌舞伎の世界から—

スポーツの世界ではピークがあります。それは主に体力にピークがあるからだと思います。しかし、能や狂言、歌舞伎などの古典芸術の世界にはピークはないそうです。なぜか。それは、古典芸術の世界では、一生が修行だからだそうです。

登山に例えると、身体が動く限り、山を登り続けなければならないことになります。想像を絶する世界です。体力の限界は言い訳にはならないようです。

81歳の狂言師で人間国宝である山本東次郎さんは、マハトマ・ガンジーの言葉、「明日死ぬと思って生きよ。永遠に生きると思って学べ」のように生きたい、登り続けることのできる山があることが幸せなことだ、とある新



聞紙面で述べられていました。

皆さんの世代は人生 100 年時代を迎えると言われていています。長年の厳しい修行を乗り越えてこられたこそその示唆に富んだ言葉を大事にしてください。

知っていましたか？ ータコの養殖ー

古来より日本人の食材として愛されてきたタコ（主にマダコ）が、高級魚になりつつあり、食卓に上がりにくくなっています。たこ焼きの中にタコが入っていないということも起こるかもしれません。

その原因は、乱獲による国内漁獲量の低下と、多くの国々では Devil fish（悪魔の魚）などと言われ、これまであまり利用されてきませんでした。近年の世界的な和食ブームやシーフードとしての利用が広まり、世界のマダコ消費量が増加の一途をたどり、日本への輸入量が減少しているからです。

私は不勉強で知りませんでした。タコは全量が天然の漁獲物だそうです。タコは非常に身近な水産物ですが、養殖の技術は確立されていなかったようです。しかし、近年日本の水産会社がその養殖に成功しました。やがて、天然資源に依存しない完全養殖タコが皆さんの食卓テーブルに上がるようになる日も近いかもしれません。



タコ (Octopus)

24節気

啓蟄（けいちつ）3月6日頃。および春分までの期間。

啓は「ひらく」、蟄（ちつ）は「土中で冬ごもりしている虫」の意味で、大地が暖まり冬眠していた虫が、春の訪れを感じ、穴から出てくる頃。

菰（こも）はずしを啓蟄の恒例行事にしているところが多い。まだまだ寒い時節ですが、一雨ごとに気温が上がり、日差しも徐々に暖かくなってきます。春雷がひときわ大きくなりやすい時季でもあります。八百屋さんの店先に山菜が並び始めます。旬の食材で春の訪れを味わいましょう。

春分（しゅんぶん）3月21日頃。および清明までの期間。

春分とは、太陽がちょうど黄径 0 度（春分点）に到達した瞬間のこと。太陽が真東から昇って真西に沈み、昼と夜の長さがほぼ同じになります。この日から夏至まで昼がだんだん長くなり、夜が短くなります。ヨーロッパなどでは、春分をもって春の始まりとしています。春分・秋分の 3 日前から 7 日間をそれぞれ春の彼岸、秋の彼岸とします。春分・秋分は「彼岸の中日」といいます。彼岸は日本独自の行事です。「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉があるように、寒さは和らぎ過ごしやすい季節になります。桜の開花情報が聞かれるのもこの頃からです。